

## “起業”ってなに？ アントレ教育の核心を、考える



### 「起業」とは、困りごとや願いに気づき、自分で動き出すこと？

**小見** 可奈子さん、今日はよろしくお願いします。吉田小学校は、昨年度から指定校として、アントレプレナーシップ教育（以下、アントレ）に力を入れています。学びを子どもたちへ手渡していくにあたっての「芯」を、実践者目線でお聞きしたいと思います。「起業家教育」とよく訳されることが多いのですが、ズバリ「起業」とは、何をすることなのでしょうか。

**佐藤** 「起業」とは、辞書的には「自分の力で会社を作ること」「新しく仕事を作ること」とあり、社長になること、お金儲けすること!?など、イメージがあるかもしれませんが。でもこれって、結果や形であって「起業」そのものではなくて、「起業」とは、「誰かが困っていることや、自分のささやかな願いや夢に気づき、自分で解決しよう！叶えよう！と決めて、喜んでもらえるものをつくること」だと考えています。

**小見** 課題解決や夢実現に向けて、自ら行動していくということですね。

**佐藤** 誰かの声にならない声、自分自身の心の声に気づき、誰か何かのせいにせず「自分でなんとかしよう」と決めて、行動し、生み出すこと。どれも、「主体的」だから自分自身が感じた「おかしい」「こうしたい！」を行動に移した人はみんな、起業家的な人と言えますね。

### じゃあ、仕事ってなに？

**小見** そう捉えると、「社長」にならなくても、起業家精神は重要そうですね。

**佐藤** そうなんです。例えば「仕事」に対して、辛い、しんどい、面倒、生活のためにやるもの、みたいなイメージの人もいるかもですが、授業では、仕事を「自分の長所（強み）を活かして、自分、相手、世の中に、「ありがとう」と「嬉しい」をつくり、しあわせにし続けられること」と決めました。「自分」と「し続けられること」が入っているのが、かなりポイントです。

**小見** 自分が無理なくやり続けられる、心もちも重要なんですね。

**佐藤** 起業も仕事も、誰かを喜ばすことだけど、大前提としてその行いが自分にとっても嬉しくて、喜びがあるものでないと、価値を提供し続けられない。特に課題解決に主眼を置いた起業や「SDGs 達成へ！」となると、自己犠牲と他者貢献に偏りすぎて、本人がバーンアウトしがちですし、私もその一人でした。

## では、自分も嬉しい起業の形って？

**小見** 以前、可奈子さんから子どもたちに、自分のよいところ（長所）をみつける授業をしていただきましたよね。



**佐藤** 人生はとっても長い。自分自身の心も体も壊さずに、他者や社会をハッピーにするは、「自分の長所（強み）」を生かした解決案やアイデアを生み出し実行することが、持続可能の鍵です。

**小見** 自分の長所について、改めて言葉に表すってなかなか難しいんですよね。

**佐藤** 長所（強み）は、いつもうまくいくときに、無意識に使っている自分の行動のクセと捉えるといいですよ。例えば、新しい遊びやルールをすぐ思いつく、教室が散らかるとつい整えたいくなる、友達の変化にすぐ気づけるなど、ついしてしまうこと、やっけていってなんだか楽しいこと、無理しているわけじゃないのに「すごいね」と言われること。「誰かより、すごいこと」から探すのでない。成績や勝ち負けだけで見えない、日頃の行動の中にあります。だから、強みは無理なく、何度も発揮し続けられる力なんです。

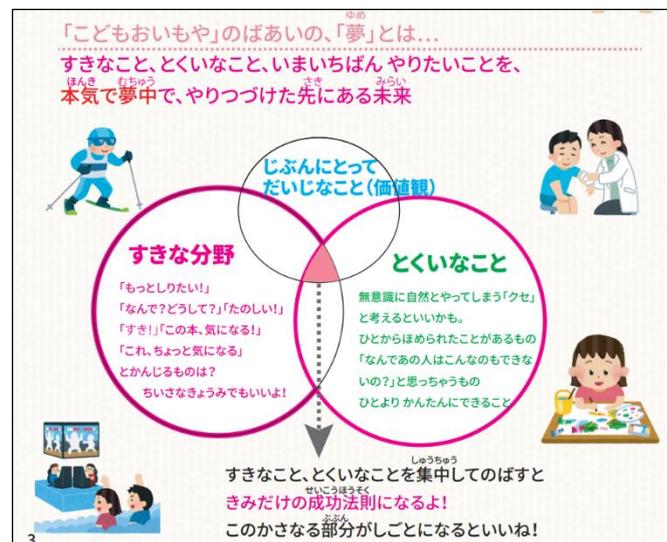
**小見** 自分の強みを自覚して、それを武器に様々な課題に立ち向かっていく。吉田の子どもたちも、起業家の芽が育ちつつありますね。

**佐藤** 自分の好きや得意を生かして、自分も相手も世の中もしあわせになる方法を一緒に学ぶから、仕事は「世にあるものから選ぶ」だけじゃないし、まだ世の中にグッとくる仕事がないなら、自分の「長所」と「好き」ととことん磨き切って、好きをお役立ち（仕事）にすればいい！と思えば、仕事に対してワクワクしますよね。

## 出発点は「誰かになること」ではなく、「自分を知ること」

**小見** 自分の好きなことや得意なことを考えることって、大切なことですよ。

**佐藤** そうなんです。好きなこと、得意なこと、あとは「自分にとって大事なこと（価値観）」の交点を集中して伸ばすことが、自分だけの成功法則だから、人と比べる生き方から卒業できるし、自分と違う他者を「すごいね！」って自然と尊重もできます。だから「もっと知りたい！」「なんで、どうして？」「これ楽しい！」「これ好き！」や、「ついやってしまうことなんだろう」「褒められたこと、喜ばれたことって何だろう」「うまくいったとき、私は何してたっけ？」「そこから見える私のよさって？」みたいな問いや感情をアントレ



の中でこぼさず、気付き、生かす機会がとても大事。もちろん一人では自分のよさに気付けないので、友達、先生、家族でどんどん褒め合うといいですね。

## 起業とは、自分の心を扱い続けること

**小見** 可奈子さんは、学校現場でアントレを行う上で、どんなことが大切だとお感じになられていますか。

**佐藤** 一般的には「行動部分」例えば商品開発、営業、販売、お金の管理やマーケティングなど、何をどうやるかの技術が表に出やすく、それらも新しい自分と出会うための「体験と学び」として、とても大事です。一方でアントレの本質は、内面教育だと考えます。

**小見** 内面の教育ですか？

**佐藤** 水面下の土台の部分(無意識下のメンタル、人格)の上に、能力や行動が乗かって初めて結果が出ます。アウトプットの質は、心の土台部分がかなり前提になっています。心の土台とは、内面でどんな感情とどんな言葉が発せられてるかというイメージでOK。

パフォーマンス (成果、結果) = 何を × どんな気持ち・感情・内面でやるか

さっき言った技術面って長い人生の中でいくらでも、いつからでも学べますが、心の土台そのものは長い積み重ねと環境が必要です。

**小見** なるほど。心の部分、自分のメンタルの部分ということですね。

**佐藤** 30年以上起業家支援をし、起業家を知り尽くしている認定NPO法人ETIC。(エティック)さんの起業塾でも、事業計画やビジネスの大きさ・美しさよりも、マインドセットにかなりフォーカスされています。

なぜなら、新しく何かを始めることや挑戦することはただでさえ正解がなく、うまくいくか分からない状況です。始めた後も失敗、否定、孤独、恐怖と付き合いながら、いろんな責任を受け止め、決め続ける。起業とは心を扱い続けることで、私も怖い。

**小見** マインドセットは、大人でもそう簡単なことではないですよ。

**佐藤** そう。挑戦する、夢を叶える、未知に勇気を出して踏み出すことは、子どもにとっても、大人にとっても簡単じゃないです。燃え尽きたり、メンタルヘルスの問題(うつ、不安障害など)を抱えたりする起業家・経営者の割合は一般の人と比べて高いという調査もある。

「だから起業は危ない!」「起業は怖い!」と思うかもしれませんが、実は、起業家・経営者に限らず、すでに社会は不安定な時代で、起業家・経営者だけが体験する特別な状況ではなくなってきたというのがVUCA(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)やBANI(脆弱、不安、非線形、不可解)の時代とよく言われてるやつですね。

**小見** 教育の世界でも「予測困難な時代」と言われ、今後、私たち教員はどのように対応していくべきなのか、この時代を生き抜く子どもたちをどう育てていくのか、今日的な課題になっています。



**佐藤** だから自分の内面に響かせる感情と言葉が重要ですね。それが世界の見え方をつくり、行動をつくるので。谷を経験した起業家・経営者さんたちは、自分自身の声を聞き、心と体に問題が起きたらきちんと扱う技術を道中に学びます。自分の声が聞けたら他者の声も聞けます。例えば運とは、行動することで出会った人やものや出来事や失敗を、運に変える力だ！とか。

だから、起業家さんが実際に乗り越えてきた行動や考え方に、とても大きな学びが潜んでいます。起業は、最高の自分を見つけて発揮し、目の前の誰かや、世の中に喜んでいただき、いろんな山を乗り越えながら、また新しい自分を発見していく、終わりなき冒険のようなものですからね。

**小見** いくつになっても、自分の好きなものや夢・目標に向かって熱中して取り組める人、活動することを前向きに楽しめる人、自分を振り返りながら高みを目指せる人、そんな人づくりができたらいいですね。

**佐藤** まさに、立ち止まっても、走ってもいい、失敗してもいい、ただどんな道になっても、自分を信じて前向きに一步踏み出し続けられるような練習、つまり心の土台づくりのサポートを、このアントレを通じてできれば。吉田小の先生方は、子どもたち一人一人に対して、かなりそれを意識してくださっていて、小規模校だからこそできる強みだと思って感動しています。



## 起業家がやっていることは、究極、この3つ

**小見** 起業とは「誰かが困っていることや自分のささやかな願いや夢に気づき、自分が解決しよう！叶えよう！と決めて、喜んでもらえるものを作る」こと。その土台に学ぶべき内面状態があると伺ってききましたが、少し目線を変えて、起業家が具体的にやっていること（行動部分）は、何でしょうか。お聞かせください。

**佐藤** 起業家がやっていることは、私は、本質的にこの3つと考えます。

### 1 対話している

対話する相手は困っている人も、自分も、仲間たちも、お客様も。解決策を考えるにあたっては、AかBかの対立ではなく、全員がハッピーになれる第3の道も考えるのがコツ。

なので、対話とは、多数決に逃げることではありません。少数意見やマイノリティを潰すことなく、全員がOKとなる解を探します。

### 2 自分で考えて行動している

行動第一！逆は「誰かのせい」「何かのせい」にしている状態。例えば学校が楽しくないのは学校のせいでしょうか。起業家は、自分でコントロールできないもの（相手の頭の中や行動、状況、環境）ではなく、自分でコントロールできるものに集中し、行動し、未来を自分で変えていきます。当事者意識、とも言います。

### 3 誰かを幸せにしたり、悩みを解決したりするような新しい価値を生み出す

アイデアや新しい視点を生むには、たくさんの学び、気づき、経験が必要です。学校の勉強も、そのためにもあります。行動すればするほど、引き出しは増えるので②と繋がっています。

## 起業家はどんなステップで行動している？

**佐藤** 実は行動にも順番があります。起業家たちは、どんな順番、ステップで、夢や願いを実現していると思いますか。

**小見** まずは現状を分析したり課題を捉えたりするところからでしょうか。

**佐藤** 実は起業家研究で、成功している（価値を提供し続けられてる）起業家の思考パターンには、共通点があると分かったんです。かつては、目標を決める、市場を分析する、計画立てる、最短ルートで達成する！ってパターンが主流でしたが、外れるようになり。

最新では「エフェクチュエーション」という考え方が有効とされています。これは「未来を予測するのではなく、今あるものから未来を作っていく」考え方。今あるものから始める、動きながら変える、巻き込みながら形にする、みたいな。前段でお話した「まず自分をよく知る」がやはりスタート地点として重要なんです。授業でもお話した詳しい内容は、QRコードの参考資料に入れたので、ぜひ。

**小見** 今あるものを動きながら変える、巻き込みながら形にするという部分は、吉田小学校が大切にしている「失敗体験を生かす学びづくり」と通じますね。

## 吉田教育ビジョンの一番星は「地域まると学びの舞台」だからこそ

**小見** お話を伺っていると、起業は、「自分と他人の幸せをつくっていく」ことが行き着くところなのかなと思ってきました。私たち吉田小学校では、「誰かの役に立つ・新たな価値を生み出す」ことも重要視しています。これは可奈子さんのおっしゃる「幸せ」と通じると思うんですね。

**佐藤** そうですね。幸福感に関しては、成績がいいかどうか、年齢、性別、人種、豪雪地か南国か、といった条件よりも、周りの人との信頼関係や繋がりが強く関係していると研究で言われています。幸福感が「ないものねだりをして手に入れるもの」でも「誰かや会社が与えてくれるもの」でもなく、自分で育てていけるもの、ということですね。

**小見** 周囲の人とのつながりや関係の中に、幸せの種があるというお話ですね。晴れの日も嵐の日も、友達や家族、地域の方とのつながりや関係を通して、幸せを育てていきたいですね。

**佐藤** 心の土台が、能力発揮にとっても影響を与えると話しましたが、アフリカに「子ども一人育てるには村一つ必要」といったことわざがあります。まさに最大の力を発揮するための心の土台、幸福感を作るには、子どもと繋がる「面」としての地域・家庭・学校も必要。

でも「いつも前向きでいろ」という意味ではなくて。辛い気持ち、不安な気持ちを感じている自分に気付くことも「自分を知る」ひとつ。みんなで、いろんな感情を大切にしながら、アントレが「面」をより強く繋げる機会になり、仲間や地域・家族と繋がる幸せな気持ちが、自分を信じ、「どんな自分であっても自分は自分の味方だ！」という気持ちを高め、一步踏み出し創造し続けられる力を育てていけるといいですね。そのために親の私たちも、自分の夢を叶え続けていたいと思います。



**小見** 最後に、ご家庭でもできるアントレ的マインドと言いますか、子どもたちが幸せに向かうための親子のかかわり方についてヒントを教えてください。

**佐藤** そうですね。「人はこういうとき幸福度が上がる」と言われている研究の中から、女性農家さんの自律支援の中で活用しているものをご家庭用に4つご紹介しますね。



## 幸福感を上げるヒント

### 1 自分の人生をコントロールしてる感覚をもつ

- ・自分の心に正直な「ささやかな願いや夢」から出発し、自分で選び自分で決める。
- ・10歳以降は「～しなさい」といった命令は避け「どうする?」「どうしたい?」など本人が自分で考える問いかけを。

### 2 自分の強みを発揮してる感覚をもつ

- ・起業家のスタート地点も自分は何ができて、何をもっているかから始まります。
- ・+αとして、好きなことの解像度を高める問いかけを。(サッカーが好きなら、好きなのは応援することか、プレーすることか、分析することか、グッズ収集なのかなど)

### 3 心が感謝に満ちてる

- ・心で思うだけでなく、感謝の言葉をしっかり言葉にすると効果あり。
- ・コツは、添付資料「心に水やりする日誌スタート」を参考に！  
「〇〇(失敗)のおかげでもっとよくする方法に気付けた！」となれば上級者！

### 4 豊かな人間関係

- ・これは必ず全員と親友になることではなく、目を見て挨拶する、廊下で声かけなど基本的なことで十分満たされる、という研究結果あり。そもそも挨拶が一番簡単にできる、相手を喜ばせ、温かい気持ちを贈れるプレゼント！これ無くして人を喜ばせる仕事はできません！

**小見** 家庭だけでなく、学校、地域でも使えそうなヒントがたくさんちりばめられていますね。私も自分の子どもとのかかわりで大切にしていこうと感じました。可奈子さん、今日は、有意義なお話をありがとうございました。

**佐藤** これからも学校、家庭、吉田地域みんなで、共に成長し合う関係を深めていける、しあわせな地域でありたいですね。こちらこそありがとうございました。

詳しい資料が  
こちらからダウンロード  
できます



### インタビュー 佐藤 可奈子さん

香川県出身。中越地震の復興ボランティアをきっかけに、大学卒業後、十日町市に移住、新規就農。農園経営を行い、2021年に「農業を通じて女性農家の自律支援や農業の課題解決を目指す」women farmers japan (株)を設立。その仕組みが、グッドデザイン賞ベスト100受賞。3児の母であり、吉田小学校の保護者でもいらっしゃる。

(聞き手：吉田小教頭 小見芳太郎)